

ぬくもり

2025年12月9日(火)

7年学年主任責任編集発行

当事者でなくても、

先週金曜の5, 6時間目はどうだったでしょうか？実際に、妊婦体験をした人も、赤ちゃんの抱っこを体験した人も、自分のお腹に、自分の腕にその小さな命の重みを感じてもらえたでしょうか？その重みが約13年前のあなたです。その重みから大きく成長したみんながここにいるのですから、軽んじてはいけませんね。でも体験の中では、「やりたくもなかったのに」、「恥ずかしい」など目的とは大きく違う思いや感情を持ってしまった人もいたようです。それはもったいない。やるからには、しっかり学んでほしい。チャンスととらえて取り組むことが大事なのではないでしょうか？人間、何がきっかけで、気づいたり、成長したりするかわかりません。もしかしたら、今、目の前の出来事が、将来を良い方向へと大きく変えるかもしれません。気づかないだけで、毎日それぐらいのチャンスが転がっているかもしれません。でも、それに気づけるか、気づけないかは、自身がどういう心構えで取り組んでいるかで変わります。みんなには、常に身近に落ちているかもしれないチャンスに気づいて、ものにできる人になってほしいです。

みんなが妊婦さんや赤ちゃんを育てる大人になることは、まだ先のこともかもしれませんし、あるかどうかともわかりません。なので、今、みんなが当事者（その事柄に直接関係している人）になることはできません。でも、実際に町や電車、バスで妊婦さんや小さい赤ちゃんを抱いている人が困っている場面を見かけたときに、傍観者（見ているだけで何もしない人）にはなってほしくありません。先生は、そんなときに「共事者」であってほしいと思います。「共事者」とは、「事を共にする人」という意味です。昨日、中学校集会で教頭先生からあった「じぶんごと」と通じるとはありますが、今回の学習をしたみんななら、そのような場面に直面したとき、「共事者」として、「じぶんごと」として、考え行動することができることを期待しています。



素直さ・縁(仲間)・考え続けること(思考)を大切にする ⇒ あったかい学年に!!